

5-68577
Sept 5, 1993

Title: Practice Target for Golf

Abstract

Purpose: To provide a practice target for golf such that it can be easily determined if the ball has entered the hole in the center of the target.

Structure: In figure 1, the center area 11 of target 10 has a vacant hole 22. Surrounding this are concentric circles 12, 13 and 14, respectively comprised of nylon, rubber sheet and netting. Furthermore, surrounding area 15 is also comprised of netting. Behind center area 11 is a bag-shaped net, which is connected to holding tube 19. A ball entering this bag-shaped net is guided into holding tube 19 is detected by a sensor 20 mounted within the tube, and is announced by bells or other such means.

(51)Int.Cl.⁵
A 63 B 69/36識別記号 515 C
H

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21)出願番号 実願平4-17375

(22)出願日 平成4年(1992)2月25日

(71)出願人 000006264

三菱マテリアル株式会社

東京都千代田区大手町1丁目5番1号

(72)考案者 上原 貢

埼玉県大宮市北袋町一丁目297番地 三菱
マテリアル株式会社セメント研究所内

(72)考案者 尾山 俊和

埼玉県大宮市北袋町一丁目297番地 三菱
マテリアル株式会社セメント研究所内

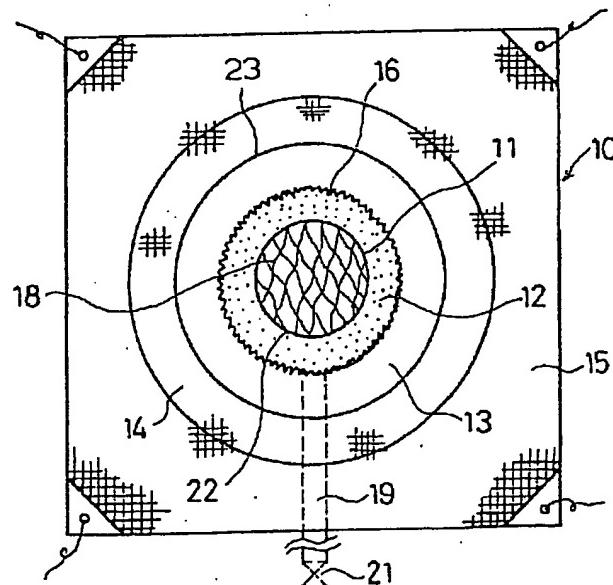
(74)代理人 弁理士 中島 幹雄

(54)【考案の名称】 ゴルフの打撃練習用標的

(57)【要約】

【目的】 打たれたボールが標的の中心区域の穴に入ったか否かを容易に識別し得るゴルフの打撃練習用の標的を提供

【構成】 図1において、標的10は中心区域11が欠如されて穴22を形成している。この周辺に同心円状に環状区域12、環状区域13及び環状区域14を有し、これらの区域はそれぞれナイロン、ゴム引き布、網状の布からなり、更にその周辺15が網状の布で構成されている。中心区域11の後部には袋状の網が設けられており、該網には滞留筒19が接続され、打たれて中心区域11の後部の袋状の網に入ったボールはこの滞留筒19の中にはいり、その途中有センサー20により検知され、ベル等により知らされる。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 円形の中心区域と、この中心区域を同心円状に囲む 1 個または複数個の環状区域とが同一面上に形成されているゴルフの打撃練習用標的において、前記標的面の中心区域およびその隣れる環状区域の両領域部分の裏側が袋状をなすように二重構造とし、かつ該中心区域の面を円形状に除去してなる構成とし、該袋状部分の下部には、ゴルフボールの取出し口を有する滞留筒を設けるとともに、このボール滞留筒の少なくとも中間部に、ボールの通過を検知するためのセンサー及びボールの通過を報知するための発信部を備えたことを特徴とするゴルフの打撃練習用標的。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案によるゴルフの打撃練習用の標的の一例を示す正面図である。

【図 2】 本考案によるゴルフの打撃練習用の標的の側面

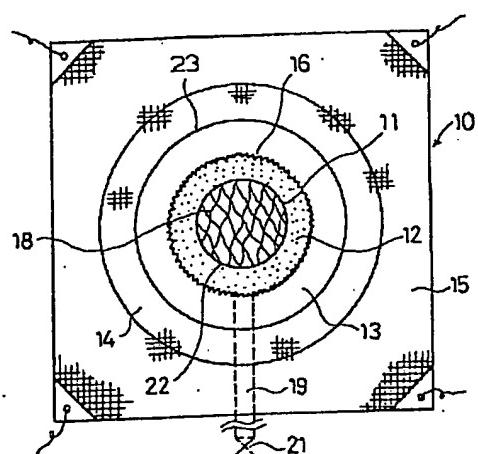
図である。

【図 3】 従来のゴルフの打撃練習用の標的を示す正面図である。

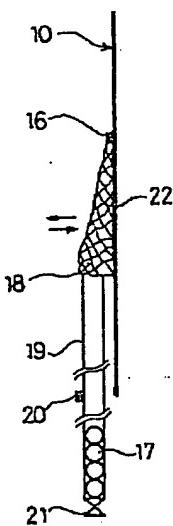
【符号の説明】

- 1、10 標的
- 2 多重丸状の模様
- 11 中心区域
- 12、13、14 環状区域
- 15 周辺区域
- 16、23 縫い目
- 17 ゴルフボール
- 18 ボール受け袋
- 19 ボール滞留筒
- 20 ボールの検知及び報知部（定点）
- 21 ボール取り出し口
- 22 穴縁部又は切欠き

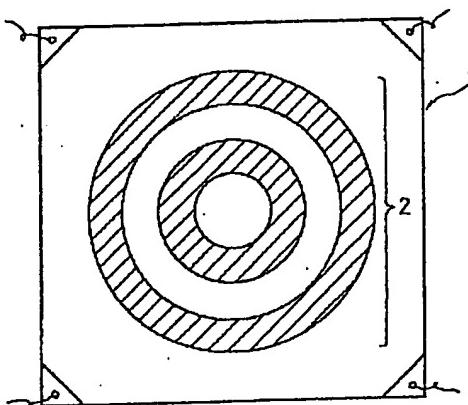
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案はゴルフの打撃練習に用いられる練習用標的に関し、更に詳しくは標的の中心区域に飛打したゴルフボールを目で確認しなくとも認知できるゴルフの打撃練習用標的に関するものである。

【0002】

【考案の背景】

従来、ゴルフ練習場、ビルの屋上または家庭に設けられるゴルフボール打撃練習用の標的は、例えば、第3図に示されるように、弓矢の標的のような多重丸状の模様2が描かれたキャンバスのような布または繊維製のネットで構成されており、そしてこのような標的1の上の模様2は、打たれたボールの飛ぶ方向がどの程度適正であるか否かを示す尺度として利用されている。

【0003】

このような標的を用いてゴルフの打撃練習を行う場合は、ボールの飛行方向ばかりでなく、振り降ろされたクラブのヘッドの中心部をボールの中心部に当てる練習を行うが、上記のような従来の標的を目掛けてボールを打ったときに、そのボールが標的のどの辺に当たるかを気にし過ぎて、打撃中に標的の方を早く見てしまうことが多く、それによって、所謂「ヘッドアップ」の状態が起り、姿勢が崩れる結果、前記ヘッドの中心部がボールの中心部から外れてしまう結果になる。

【0004】

一方、ゴルフクラブのヘッドの中心部がボールの中心部に当たり、そのボールが望ましい方向に飛ぶようにフォームを重視してボールを打つときは、バッティング後、直ちに標的の方に目を向けても、ボールは既に標的に当たった後となつて、ボールが標的のどの辺に当たったかを確認することができないという問題があった。

【0005】

【考案の目的】

本考案は、このような状況に鑑みて考案されたもので、本考案の目的は、ゴルフの打撃練習において、打たれたボールが標的の特に中心区域の穴に入ったか否かを容易に識別できるゴルフの打撃練習用の標的を提供することにある。

【0006】

【考案の構成】

前記目的は、円形の中心区域と、この中心区域を同心円状に囲む1個または複数個の環状区域とが同一面上に形成されているゴルフボール打撃練習用の標的において、前記標的面の中心区域およびその隣れる環状区域の両領域部分の裏側が袋状をなすように二重構造とし、かつ該中心区域の面を円形状に除去してなる構成とし、該袋状部分の下部には、ゴルフボールの取出し口を有する滞留筒を設けるとともに、このボール滞留筒の少なくとも中間部に、ボールの通過を検知するためのセンサー及びボールの通過を報知するための発信部を備えたことを特徴とするゴルフの打撃練習用の標的によって達成される。

【0007】

【作用】

本考案の標的は、標的面の中心区域とその隣れる環状区域との両区域が裏側に二重構造で袋状となっていて、かつ、標的面の中心区域のみが、円形穴となって欠除しているので、ゴルフの打撃練習においてボールが標的面の中心区域に当たった時には、ボールがその裏側の受け袋に落ち込み、それに連なるボール滞留筒に入ると、その少なくとも中間部に設けられたセンサー及び発信部によって標的面の中心区域を通過したボールを確認することができる。

【0008】

即ち、標的に対するボールの衝突場所は、その都度、視覚で確かめなくても、すなわちボールの行方を目で追わなくても、ボール滞留筒の入口部分をボールが通過する際にセンサーが検知し、引続いて、ベルやランプで報知してくれることによって知ることができる。また、必要に応じて後からボール滞留筒を目で確認することによって知ることができる。

また、狙いを外れた外周環状部へ当たったボールは標的面に沿って外部へ落下するので、ナイスボールとブアボールとが選別される。

【0009】

【実施例】

次に実施例を参照して本考案を説明するが、本考案の実施態様は勿論これに限定されない。

【0010】

第1図は本考案によるゴルフの打撃練習用の標的10を表す正面図であつて、標的の全体的な材質は比較的太い糸を固く、かつ、密に織ったキャンバスからなり、中心に位置する直径12cmの円形をなす中心区域11は欠陥22されて穴を形成している。

【0011】

ここで、中心区域11とこの中心区域11を中心円状に囲む幅8cmの環状区域12との両区域は、この両区域を覆うように裏面に太目の糸を粗に織った網状の布からなる袋状体が設けられている。この袋状体は中心線上の一部分16に密着して、そのほかの円周17は下方へ向って空間に次第に余裕を持つギャザーの受け袋18として標的キャンバスの環状区域12の外周に縫い合わせて取り付けられている。

【0012】

また、このギャザー受け袋18の下部には、ゴルフボールが、落ち込み滞留できるように、透明なビニルホース（又はアクリル管）によって作られた滞留筒19が設けられ、その少なくとも中間部の所定位置にボールの通過を検知するボールの検知及び報知部にあるセンサー（マイクロスイッチ）20と、それを報知するベル（図示せず）を備えるとともに、滞留筒19の端部出口には、ホース締め具又はストッパー21を設けた。

【0013】

上記標的キャンバスにおいて、ここに存在する環状区域12をさらに同心円状に囲む幅8cmの環状区域13、そしてこの環状区域13を更に同心円状に囲む幅8cmの環状区域14およびその外側の周辺区域15との構成になっている。

【0014】

環状区域12は、ナイロンの布からなり、環状区域13は、ゴム引きの布から

なり、更に環状区域14は、その外側の周辺区域15と同じ材質である、緩く、かつ粗く織られた網状の布から構成されており、そしてこの標的10は、ナイロンの布、ゴム引きの布および網状の布の間は、それらの円周16及び23に沿つてこれらの材料を互いに縫い合わせることによって作られている。

【0015】

このような標的10に向かって打たれたボールが、環状区域12、環状区域13、環状区域14および周辺区域15のいずれかに当たったときには、そのボールがその他のいずれかの区域に当たったときに発する衝突音とはそれぞれ異なる音色の衝突音を生じるので、ボールが当たった瞬間を目で見なくても、その衝突音を聞くことによってボールがどの区域に当たったかを知ることができる。

【0016】

本考案において、これらの環状区域の数、幅、材料の種類又はその組合せ、あるいは中心区域の大きさ等は、本考案の範囲内で種々変更することができる。このような標的10に向かって打たれたボールが中心区域11に当たるナイスボールの時には、そのボールが標的裏面のギャザー受け袋18に落ち込み、順次、滞留筒19に入る。

【0017】

この時、ナイスショットされたボールが受け袋18に後続するボール滞留筒の定点を通過することに、センサー（マイクロスイッチ）20がボールを検知して、ベルを鳴らすので、ボールが的に当たった瞬間を目で見なくても、ボールが的の中心区域に当たったことを知ることができる。

【0018】

なお、打たれたボールが、標的の中心部を外れ、ブアボールとなった時は、的のキャンバス部12～15のいずれかに当り、標的表面の下方へ落下し、上記ナイスボールと区別されるので、これを計数することもでもショットの内容を知ることができる。

【0019】

また標的のキャンバス部12～15の位置を知りたいときは、それぞれの区域の発する音色によってその当たった位置を知ることができる。

本考案は、標的のキャンバス部に符号12～15で示される領域を設けた例について説明したが、本考案は、これらの領域を設けないものであってもよい。

【0020】

【考案の効果】

以上述べた説明から明らかなように、本考案によると、ゴルフボールが標的の中心区域に衝突したとき、的の裏面側に設けられた（ギャザー）受け袋にボールが落ち込み、続いて下方のボール滞留筒に入ることによって、そのボールがナイフ式ボールであったかどうかを識別できるので、ゴルフボールを打つ時に所謂「ヘッドアップ」の状態を招くような打撃フォームの崩れを起こすことなく、クラブのヘッドとボールの当たる場所が適正となるのに適した打撃フォームを習得することに十分注意を注ぐことができると同時に、ボールの飛行方向がどの程度適正であるかを容易に判別できるゴルフの打撃練習用の標的が提供される。